

ご意見・ご要望

投稿日

平成30年10月29日

件名

甲府市立遊亀公園附属動物園について

本文

毎年寒い季節がやってくるとカメ舎がガランとしてしまいます。ここに住むカメ達は、とても大きくて、よく動き回り、結構人懐こいので、見ていると自然と笑顔になります。

だから春までは本当に寂しくなります。来園者が、入ってすぐの場所にいる、大きくて活発に動くたくさんのカメを見て驚いている様子もよく見かけました。

これからの時期、初めて来園した人がまず目の当たりにするのが、からっぽのカメ舎となってしまうと、動物園、ひいては市の文化レベルについて好くない印象を抱かせてしまうのではないのでしょうか。まして「遊亀」と言う名前まで冠しているのに、です。

園の方の話では、この時期、カメ達を暖房のきく場所に移動させるそうです。でも、大きなカメ達は冬眠をしないものなのだそうです。だとすると、きっとそこは狭いでしょうし、激変した環境の中で長期間のストレスにさらされて過ごすであろうことは容易に想像できます。昨今、動物園に対してエンリッチメントが強く求められています。カメ達にとっても、また、動物園に憩いのひと時を期待して通う市民にとっても、年間を通して過ごせるカメ舎の設置は早急に必要なのではないのでしょうか。折しも動物園100周年、また中核市への移行にともない福祉にも一層取り組んでいくという市の姿勢をうかがうにつけ、市の住民とも言える動物達の福祉にも本気で取り組んでほしいと思います。

ここのような都市型動物園には老若男女が気軽に、繰り返し来たくなるような工夫が必要だと思うのです。飼育舎の前で足を止める機会が増えることこそ再訪につながると思います。例えば、カメ舎に小山があって力強く登る姿が見られたり、近隣にうさぎ舎があって活発なカメとじっとしているうさぎを対比して、リアル「うさぎとかめ」見られたりしたら楽しいと思います。

この動物園に暮らす動物たちは皆、個性があって面白いです。派手さではなく、ユニークな展示手法次第で入園者もかなり増えると思います。動物園は何と言っても不動の人気スポットですし、もしかしたら、近くにある街の中心部にも人の流れが及ぶかもしれません。

カメ舎の件、福祉のシンボリック事業となりますよう、どうか早急に検討願います。

回答

回答日

平成30年11月5日

担当部署

建設部 まち保全室 公園緑地課

本文

ご意見、ご要望いただきました本市動物園のカメ舎につきましては、カメの健康管理のため冬季は暖かい屋内へ移動させております。夏の間は多くの来園者がカメの大きさに驚いたり、カメが餌を食べる様子を楽しみながら観察している様子を見るにつけ本園も年間を通じて展示できる施設の必要性を感じております。

現在、策定を進めております動物園整備計画においてカメ舎の整備も予定されており、カメが通年快適に暮らせる設備を整えたいと考えております。その際にはご提案のありましたアイデアも参考にさせていただきたいと思っております。

また、動物福祉につきましては、現在園をあげて取り組んでいるところであり、動物福祉に関して、このような関心を寄せていただくことに園としてありがたく、励みとして、今後もより一層の動物福祉に努めてまいりたいと思っておりますので動物たちを暖かく見守っていただけますと幸いです。

今後とも何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。